専門科目／ヘルスケア・ライフマネジメント科目群

福祉とテクノロジー活用 2単位

担当教員：山田 栄子

障害者・高齢者自身のテクノロジー活用とコミュニケーション手法を学ぶ

講義目的・到達目標

障害者・高齢者にとってコミュニケーションや社会とのつながりを確保することがいかに重要かを学ぶ

- 障害者・高齢者のQOL向上として、身体的な状況、医療的な介入（治療等）に焦点があてられがちであるが、AACという視点でのアプローチにより、本人の意欲を引き出す手法について、理解を深める。
- AACとは、Augmentative & Alternative Communicationの略で、拡大・代替コミュニケーションと訳されている。
- 本人の自己決定や自己選択を引き出すため、「その人に残された能力とテクノロジーの力で自分の意思を相手に伝えること」を実現する技術を学ぶ。

多様なコミュニケーションを実現する手法として、テクノロジーの有効性を実感する

- 現代社会において、自分自身がいかにテクノロジー（IT等）の恩恵を受けて生活しているかを実感しつつ、AACのアプローチにおいて、ATの重要性と活用方法を学ぶ。
- ATとは、Assistive Technologyの略で、障がいのある人の生活を支えるために利用される技術を指す。
- 特に身の回りにある便利なテクノロジーを中心に活用可能性を考える。
- また、これらを推進するための社会的な課題(制度改革、意識改革・支援人材の育成等）についても学ぶ。

講義の構成

講義の流れ

第1段階として、障害者・高齢者自身がテクノロジーを上手に使うことの意義を理解する。そのためには、自分自身の生活がテクノロジーを活用することで、どれだけ便利になったかを実感してもらう。
第2段階として、技術革新などにより社会そのものも変化している中で、障害や福祉に対する考え方も変化することが求められていることを学ぶ。
第3段階として、コミュニケーションの取り方について学ぶ。コミュニケーションに対する先入観などを取り払うことで、コミュニケーションスキルの向上と、コミュニケーションにおけるテクノロジー活用の基本を学ぶ。
第4段階として、具体的なツール、身の回りにあるテクノロジーについて学び、今日からでも活用できるアイデアをイメージできるようにする。
第5段階として、技術革新が進む昨今、個人の生活の中でテクノロジーを活用し続けるために必要となることを洗い出し、整理する。

講義のポイント

- これまでの常識にとらわれず、柔軟な発想で、コミュニケーションとテクノロジーを考える。
- 社会の動向にあった技術の活用を考える。
- それを支えるために必要な社会の環境整備を考える。
  以上を実現するために、各分野ごとに最新の動向を把握しているゲスト講師をお呼びして、現実にそった講義を行う。

1 福祉・教育分野におけるテクノロジー活用の意義
本講義の目的や意義を十分理解する

2 変わる障害とこれからの福祉
コミュニケーション・テクノロジー・合理的配慮について学ぶ

3 コミュニケーションの技術
具体的なコミュニケーションスキルについて学ぶ
(1) 日常のコミュニケーションを振り返る
(2) 肢体不自由・言語障害におけるコミュニケーション
(3) 知的障害・自閉症におけるコミュニケーション

4 テクノロジーを用いた支援
テクノロジーの活用方法を学ぶ
(1) 身の回りにあるテクノロジーで支援する
(2) パソコンに隠された秘密のツールを体験する
(3) 携帯電話やタブレットPCを使いこなす

5 テクノロジー活用を促進するための環境整備
生活分野において、テクノロジーを活用し続けるための環境整備について学ぶ

受講するにあたって

①事前学習のすすめ　自分自身の生活の中で、テクノロジーによって便利になったこと、弊害になることなどを見つめ直すことをお勧めする。

②参考図書　特定非営利活動法人e-AT利用促進協会が出版している下記図書を参考。
■詳解　福祉情報技術　■ICTアクセシビリティー
■魔法のふでばこプロジェクト2011年度レポート「タブレット端末を利用した学習支援マニュアル」

③評価基準　自分にとって便利なテクノロジーが社会生活においてバリアフルな障害者・高齢者にとっても便利なものであることを理解し、その活用と支援において、自分なりの考え方を整理できているかどうかを評価する。
- テクノロジーの活用とそれを支える社会の仕組みに関して独自の考え方や提案が整理できている：A
- 講義の内容が理解できている：B　●自分の関心が整理されている：C